

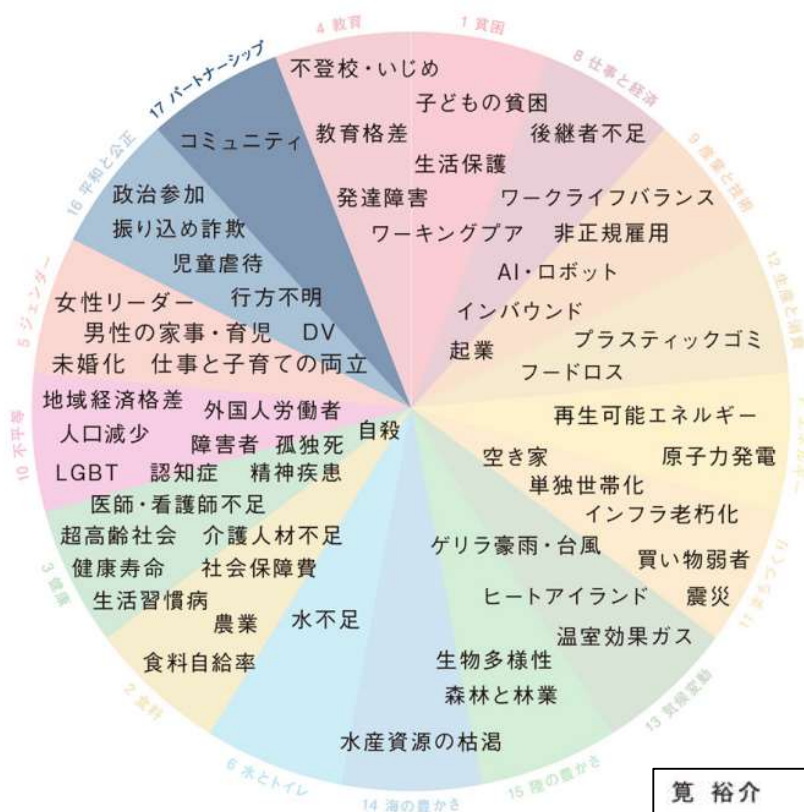
analysis

日本と地域の持続可能性実態

17番目のゴールはこれまでの16ゴールと少し毛色が違います。16番目までは地球と地域が抱える課題を示すもののに対して、17番目はその解決方法を示したものです。国連、国、地域、大学、企業、NPO、市民、様々な立場のプレイヤーが協働し、パートナーシップを組み、地球が、国が、地球と地域が抱えるすべての課題にみんなで取り組み、持続可能な未来を切り拓きましょう。



パートナーシップで
目標を達成しよう



出典：寛裕介「持続可能な地域のつくり方
みらいを育む『人と経済の生態系』のデザ
イン」（英治出版社，2019）

寛 裕 介

1975年生まれ。一橋大学社会学部卒業。東京工業大学大学院修了。東京大学大学院工学系研究科修了(工学博士)。2008年ソーシャルデザインプロジェクトissue+designを設立。以降、社会課題解決のためのデザイン領域の研究、実践に取り組む。日本計画行政学会・学会奨励賞、グッドデザイン賞、竹尾デザイン賞、カンヌライオンズ(仏)、D&AD(英)、他受賞多数。著書に「ソーシャルデザイン実践ガイド」「人口減少×デザイン」(単著)、「地域を変えるデザイン」「震災のためにデザインは何が可能か」(共著・監修)など。